

野菜畑作生産情報 第3号

令和元年6月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦の刈取適期は6月下旬～7月中旬の見込みです。適期収穫に努めましょう。
◎にんじくの生育は早まっており、収穫期も平年より早まる見込みです。収穫及び乾化作業の準備を計画的に行い、適期収穫に努めましょう。

畑作物

1 小麦 (1) 生育状況

- ア 開花期は、ネバリゴシ、キタカミコムギとも平年より4日程度早かった。
- イ 稈長は平年より短く、穂長は、黒石市のネバリゴシがやや短いほかは平年並からやや長く、穂数は、六戸町のネバリゴシが少なく、黒石市のキタカミコムギはやや少なく、ネバリゴシはやや多くなっている。

表-1 小麦の出穂期、開花期

場 所	年次	ネバリゴシ		キタカミコムギ	
		出穂期 (月日)	開花期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/19	5/24	5/21	5/25
	平年差	(早2日)	(早4日)	(早2日)	(早5日)
	平 年	5/21	5/28	5/23	5/30
	前 年	5/16	5/24	5/18	5/25
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/20	5/26	/	
	平年差	(早1日)	(早4日)		
	平 年	5/21	5/30		
	前 年	5/17	5/26		
つがる市 (木造)	本 年	5/17	5/25	5/19	5/27
	平年差	(早3日)	(早3日)	(早2日)	(早3日)
	平 年	5/20	5/28	5/21	5/30
	前 年	5/21	5/28	5/20	5/29
十和田市 (相坂)	本 年	5/20	5/26	/	
	平年差	(早2日)	(早4日)		
	平 年	5/22	5/30		
	前 年	5/21	5/26		

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)が生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去13か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去10か年(24年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)と十和田市(三本木)の「ネバリゴシ」が過去17か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去23か年の平均値。

表－２ 小麦の生育状況（6月10日、前年は6月11日）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	64.8	7.1	426	72.0	8.6	335
	平年比	(87%)	(92%)	(105%)	(84%)	(100%)	(97%)
	平 年	74.4	7.7	404	86.0	8.6	344
	前 年	71.9	7.6	350	78.6	8.3	255
野菜研究所 (六戸町)	本 年	76.3	8.6	583			
	平年比	(81%)	(104%)	(83%)			
	平 年	93.7	8.3	706			
	前 年	91.5	8.0	600			

(2) 今後の農作業の留意点

ア 刈取準備

- (ア) 刈取りが早まる見込みなので、適期に刈取りできるようコンバインや乾燥調製施設を準備する。
- (イ) 効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

イ 適期刈取

- (ア) 刈取適期は6月下旬～7月中旬頃の見込みである。穂数の少ないほ場では早まることも予想されるのでよく観察し、収穫が遅れないようにする。
- (イ) 刈取りは、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下（穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態）になった頃をめぐりに行う。
- (ウ) 刈取りが早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび粒や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に収穫する。
- (エ) 倒伏や穂発芽した小麦は、仕分け刈りを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。
- (オ) 赤かび病は、被害粒の混入割合が1万粒に4粒程度を超えると流通できなくなるので、収穫にあたっては、事前に赤かび病の発生状況を把握し、罹病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。

表－３ 積算温度による刈取適期の見込み

品種 地域	ネバリゴシ		キタカミコムギ		ゆきちから	
	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期
西 北	5/17	7/1～6	5/19	7/6～10	-	-
中 南	-	-	-	-	5/18	6/28～7/3
東 青	-	-	5/23	7/11～15	-	-
上 北	5/20	7/7～13	-	-	-	-
三 八	5/20	7/7～12	-	-	-	-

- 注) ①出穂期以降の積算温度(ネバリゴシ：830～950℃、キタカミコムギ：900～1,000℃、ゆきちから：754～867℃)を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス（西北は五所川原、中南は黒石、東青は青森、上北は十和田、三八は八戸）から計算した(6/19現在)。
- ②出穂期は、表－1及び各地域からの聞き取りによる。

2 大豆

(1) 生育状況

出芽は、ほ場の乾燥により津軽地域の一部で遅れが見られるほかは順調である。

表-4 大豆の出芽状況

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/24	6/5
	(平年差)	(早1日)	(±0日)
	平 年	5/25	6/5
前 年	5/28	6/6	
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/15	5/21
	(平年差)	(±0日)	(早5日)
	平 年	5/15	5/26
前 年	5/15	5/26	

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去14か年、野菜研究所が過去12か年の平均値。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア ほ場の状況を確認し、出芽していないほ場等は、明きょやうね間を利用してかん水する。
- イ 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。
- ウ アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。
- エ 長雨に備え、明きょを設置するなど排水対策を徹底する。

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

- ア 地上部の生育は平年並からやや下回っているが、地下部の肥大は平年並から上回っており、生育は早まっている。
- イ 収穫期は、平年より早まると見込まれる。
- ウ 病害虫は、春腐病、さび病、黄斑病の発生が散見される。

表-5 にんにくの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	球 径 (mm)	球 重 (g)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	103.1 (105%)	13.2 (105%)	19.1 (96%)	66.1 (116%)	100.6 (126%)	4/20 (1日早)	— (—)
	平年	97.9	12.6	19.9	57.1	79.7	4/21	7/2
	前年	94.6	12.6	19.5	62.7	95.3	4/18	6/27
藤 崎 町 (福 島)	本年 (平比)	82.6 (99%)	7.9 (95%)	18.9 (93%)	54.6 (106%)	62.3 (96%)	4/30 (1日遅)	— (—)
	平年	83.1	8.3	20.4	51.3	65.0	4/29	7/2
	前年	90.6	8.4	20.5	55.1	79.3	4/24	7/2
七 戸 町 (榎 林)	本年 (平比)	80.5 (97%)	7.3 (89%)	21.6 (103%)	57.7 (107%)	75.9 (107%)	4/23 (1日早)	— (—)
	平年	82.6	8.2	20.9	53.8	70.8	4/24	6/28
	前年	82.2	7.7	21.8	59.8	84.1	4/23	6/22
田 子 町 (田 子)	本年 (平比)	75.3 (93%)	7.7 (91%)	16.0 (82%)	59.2 (107%)	75.3 (104%)	4/21 (2日早)	— (—)
	平年	81.2	8.5	19.6	55.1	72.6	4/23	6/28
	前年	81.2	8.7	19.3	57.9	73.5	4/20	6/25

- 注) ①平年：野菜研究所は平成22～30年の9か年の平均値。
藤崎町は平成9年～30年の22か年の平均値。
七戸町は平成8年～30年（平成25年を除く）の22か年の平均値。
田子町は平成9年～30年の22か年の平均値。
- ②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）。藤崎町は福地ホワイト（13～15g）。
七戸町は白玉王（9～11g）。田子町は白玉王（10～12g）。
- ③葉数：野菜研究所は抽出葉数。藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。
- ④マルチ：野菜研究所は透明、藤崎町は無マルチ、七戸町、田子町はグリーン。
- ⑤調査日：前年は6月11日現在。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 病害虫の適期防除

収穫時までには1枚でも多く生葉を残すことが球の肥大促進と割れ玉の発生軽減につながるため、収穫時期に合わせた病害虫防除を徹底する。

葉枯病、黄斑病は、収穫間際に一気に広がることもあるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 適期収穫

収穫遅れとならないよう、^{ばんけいぶ}盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる時期に収穫できるように、早めに試し掘りを行い確認する。

ウ イモグサレセンチュウの防除対策

被害の拡大を防止するため、機械等がほ場間を移動する際は、洗浄を徹底する。

イモグサレセンチュウの発生が確認されているほ場では、りん球への進入を抑制するため、①早期収穫、②速やかな根切り、③根のほ場外への搬出と適正処分、④速やかな乾燥を行う。

なお、種子用のにんにくは、イモグサレセンチュウの発生を確認するため、20球程度を網袋に入れて1か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を調査する。異常が見られた時は、指導機関に診断を依頼する。

エ 適正乾燥

(ア) 乾燥用の暖房機の温度設定は35℃とし、にんにく付近の温度が高くと、煮え症状が発生しやすくなるので、38℃以上にならないよう管理する。

(イ) 乾燥の仕上がりは重量が7割程度に減少した頃を目安に、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

(ウ) 建築用水分計を活用する場合は、重量が7割程度に減少した時の盤茎部の水分測定値「10～15%」を乾燥仕上がりを目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分測定値と全体の水分状態の関係が通常乾燥とは異なることから、重量比による従来の判断方法と併用して総合的に判断する。詳細については指導機関に相談する。

オ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、湿気が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

2 ながいも

(1) 生育状況

植付作業は、平年より7日程度遅い5月上旬に始まり、植付終わりは平年並の6月上旬となっている。

病害虫は、早植栽培でアブラムシ類が散見される。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新しいも長も確認して、適期に行く。

表-6 ながいもの追肥方法

追肥開始時期の目安	早植栽培（頂芽付1年子）	普通栽培	
	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後60日前後（6月下旬～7月上旬） ・新しいも長は5cm前後 ・つる長は150cm前後 	種いも：子いも	種いも：切いも
追肥の間隔及び回数		<ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬から8月上旬の間に、12～14日間隔で3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後45～55日頃（7月中旬頃）
1回当たりの追肥量	<ul style="list-style-type: none"> ・つる長200～220cm（ネット8分目～ネット上部到達） ※低温年では、新しいも長10～15cmを目安とする。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・7月中旬から8月中旬の間に、10日程度の間隔で3回 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・10a当たり窒素成分で5kg以内とする。 		

※ ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥量を減らす。

イ 病害虫の適期防除

葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。

採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

表-6 アブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生時期（月／旬）

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ幼虫	葉渋病
			発生初め	発生盛期	発生初め	発生初め
早植栽培	5／上	5／下	5／下	6／中～下	6／中	7／中
普通栽培	5／下	6／下	6／下	7／中	7／中	8／下

ウ 排水対策

- ・大雨に備え、明きよを排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- ・植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

3 春夏にんじん（トンネル栽培）

（1）生育状況

- ア 生育は順調で、地上部は平年を上回っている。地下部は、根長が平年を下回っているものの、根径、根重は上回っている。
- イ 病害虫は、こぶ病が散見される。

表－8 春夏にんじんの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
六 戸 町 (下吉田)	本年 (<small>平年比</small>)	3/ 5 12日早	64.0 (113%)	8.9 (106%)	15.8 (92%)	39.1 (107%)	97.2 (112%)
	平年	3/17	56.5	8.4	17.1	36.5	86.9
	前年	3/16	71.0	8.8	16.7	41.5	114.9

- 注) ①平年：平成21年～30年の10か年の平均値。
 ②品種：彩誉7
 ③調査日：前年は6月11日現在。

（2）今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、M、L級が中心になった頃に収穫する。

4 ばれいしょ

（1）生育状況

- ア 生育は順調で、草丈は平年を上回っている。
- イ 着蕾期は平年より3日早い5月26日、開花期は平年より2日早い6月8日となった。
- ウ 病害虫は、ほとんど発生していない。

表－9 ばれいしょの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (<small>平年比</small>)	4/ 6 (1日早)	5/ 5 (1日遅)	5/26 (3日早)	6/ 8 (2日早)	66.8 (105%)	2.0 (74%)
	平年	4/ 7	5/ 4	5/29	6/10	63.7	2.7
	前年	3/30	5/ 1	5/25	6/ 7	64.1	2.1

- 注) ①平年：平成19年、平成21年～24年、平成26～30年の10か年の平均値。
 ②萌芽期の平年：平成21年～24年、平成26～30年の9か年の平均値。
 ③品種：メークイン
 ④調査日：前年は6月11日現在。

（2）今後の農作業の留意点

- ア 疫病の予防防除を徹底する。
- イ 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るなどして、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。
- ウ 日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見した場合は、ジャガイモシストセンチュウによる被害が疑われるため、指導機関に診断を依頼する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア は種作業が遅れたため、草丈、葉数は平年を下回っているが、生育はおおむね順調である。
- イ 降水が少なく、ほ場が乾燥気味で推移したことから、一部で出芽の遅れがみられている。
- ウ 病害虫は、ほとんど発生していない。

表－10 ごぼうの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	5/4 (6日遅)	9.3 (91%)	1.9 (95%)
	平年	4/28	10.2	2.0
	前年	5/4	8.0	1.3

注) ①平年：平成21～30年の10か年の平均値。
②品種：柳川理想。
③調査日：前年は6月11日現在。

(2) 今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

6 メロン

(1) 生育状況

- ア トンネル栽培（5月上旬定植）では、乾燥の影響で節間がやや短く、葉がやや小ぶりであるが、主づる長、主づるの葉数ともに平年（過去5か年の平均）を上回っており、生育は順調である。
- イ 着果節位の開花期となっており、開花は順調である。
- ウ 病害虫は、一部でアブラムシ類の発生が見られる。

表－11 メロンの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主 づ る 長 (cm)	主 づ る の 葉 数 (枚)
つ がる 市 (木 造)	本年 (平年比)	5/4 (1日早)	182.4 (116%)	24.4 (115%)
	平年	5/5	157.6	21.2
	前年	5/6	152.0	19.5

注) ①平年：平成26年から担当農家を変更したため、平成26～30年の5か年の平均値。
②品種：タカミ（台木：ダブルガードパワー）
③調査日：前年は6月11日現在。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底して生育の促進を図る。特に交配期に12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。
- イ 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。
- ウ アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

7 ねぎ

(1) 生育状況

- ア 3月下旬定植の生育は順調で、草丈、茎径がおおむね平年並である。
- イ 4月下旬定植の生育は順調で、草丈、茎径が平年を上回っている。
- ウ 病害虫は、一部でべと病の発生や、ハモグリバエ類、アザミウマ類の被害が見られる。

表-12 ねぎの生育状況（6月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
八 戸 市 (是 川)	本年 (平年比)	12/26 (19日早)	3/22 (5日早)	68.6 (97%)	15.8 (101%)
	平年	1/14	3/27	70.7	15.7
	前年	12/28	3/29	71.8	16.6
十 和 田 市 (羽 立)	本年 (平年比)	2/ 5 (12日早)	4/23 (6日早)	52.3 (127%)	11.6 (133%)
	平年	2/17	4/29	41.1	8.7
	前年	2/24	4/23	45.8	10.5

注) ①平年：八戸市は平成15～30年の16か年の平均値。
十和田市は平成17～30年の14か年の平均値。

②品種：夏扇パワー

③調査日：前年は6月11日現在。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア 草勢の維持に努め、生育に応じて培土や追肥を適期に行う。
- イ 主要病害のべと病が発生しているほ場では、蔓延しないよう防除を徹底する。
- ウ ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって、
農薬は適正に使用しましょう。
農薬の飛散を防止しましょう。
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
市販されている除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので御注意ください。
農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
農薬登録情報提供システム
【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎～農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～
自分にあつたセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！
1 農業共済
「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。
2 農業経営収入保険
令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。
※ 詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
